





源注拾遺卷第四

明石

冷標

蓬生

閑屋

繪合

松風

薄

控



末通女

明石

一 程とれらうらなれらぬし 焚くやれん

れき

古今

その中のいけらるる奥は

おのちのちのちやけあし

一 せうとれ

○今来五夜もあつたし

九月亂のちやうとちのちやうとち

後矣疑

一 秋のころは秋のころと

○今葉は今

秋のころは秋のころと

秋のころは秋のころと

一 のころは秋のころと

○今葉は今

秋のころは秋のころと

秋のころは秋のころと

一 のころは秋のころと

秋のころは秋のころと

秋のころは秋のころと

○今葉は今

及んば

一 あつちのころは秋のころと

秋のころは秋のころと

秋のころは秋のころと

秋のころは秋のころと

心や又な姿をいれをさすり—
細かたしりまの飽あさり—
昨日あはれゆく候の飽力や—
い—
い—
い—

注—
い—
い—

○今葉先折換るり—
い—
い—

多哉—
い—
い—
い—
い—
い—
い—
い—
い—
い—
い—
い—
い—

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あゝわゝいかに

細い糸をよみかきわたる鳥の

こゝろはいつかきかたか

比方中もたれはよきよき

住吉の神とたのしみあり

いかにいかに

○今播和君才八播ノ國明石郡

住吉須美又因郡葛江神和

船名のいかにいかに

乃も成ひけりあはれたる所

市鎮のいかにいかに

乃も海にありあはれたる所

いかにいかにいかに

と飛ぶと

いかにいかにいかに

細い糸をよみかきわたる鳥の

いかにいかにいかに

○今東いかにいかに

かゝるものゝ世にあらざらんか
あまのこゝろにあらざらんか
あまのこゝろにあらざらんか
あまのこゝろにあらざらんか
あまのこゝろにあらざらんか
あまのこゝろにあらざらんか

一 玉とあまのこゝろ

○今 兼 兼 兼

一 九

あまのこゝろにあらざらんか

あまのこゝろにあらざらんか

一 玉とあまのこゝろ

○今 兼

一 玉とあまのこゝろ

兼 兼 兼 兼

あまのこゝろにあらざらんか

あまのこゝろにあらざらんか

○今更に
かた
かた

○今更に

かた

かた

○今更に

かた

かた

かた

○今更に

かた

○

かた

かた

かた

かた

かた

~~~~~

日十

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

〇今東一カ葉十三

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

しづかにわらわのこころを

あはれの御成りさうなまのこころ
りよのわらわのこころ

細草の地へ咲きよのこころ
いとまのこころ

盃あはれのこころ
さかすかのこころ

○今昔細流のこころ
盃のあはれのこころ

今昔のこころ
りよのこころ

○今昔遊仙屈之昔
眠恒嫌夜短

万葉記

あはれのこころ

秋の百葉のこころ

ちよのこころ

細草のこころ

今東地川の南に

○今東地川の南に
万葉集の

北の山に

北の山に

北の山に

北の山に

北の山に

北の山に

北の山に

北の山に

北の山に

北の山に

北の山に

北の山に

北の山に

北の山に

北の山に

一 心 (~~~~~) 心 (~~~~~) 心 (~~~~~)

七月旬

〇 今 某 上 小 六 月 心 (~~~~~) 心 (~~~~~) 心 (~~~~~)

龍 六 月

一 月 (~~~~~) 心 (~~~~~)

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

目 按 心 (~~~~~) 心 (~~~~~) 心 (~~~~~)

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日 心 (~~~~~) 心 (~~~~~) 心 (~~~~~)

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

心 (~~~~~)

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

心 (~~~~~) 心 (~~~~~) 心 (~~~~~)

つゝみじよのまぢのたらしんか  
○今果は撰る友は秋はつゝみぢ  
を中らふ 友友兼博物ト

後東のふけはつゝみぢ

つゝみぢのたらしんか

つゝみぢのたらしんか

白妙是袖はつゝみぢ

つゝみぢのたらしんか

つゝみぢのたらしんか

○今採日本紀才五並仁紀云田道  
間守至月常世國則賈物也非  
時番菓八竿八纒季延喜式云橋  
子二十四蔭云是の蔭のまぢはけと  
ゆりぬあはつゝみぢの數懸秋あはつゝ  
かゝ小高成をて揚るゝあはつゝ  
つゝみぢのたらしんか  
つゝみぢのたらしんか  
つゝみぢのたらしんか

にりり

○今東の物もさうも  
もく家一くさるへ  
おほにあら物に  
細流小物の事  
とらはあり

いふるの事  
いふるの事

○今東の物もさうも  
もく家一くさるへ  
おほにあら物に  
細流小物の事  
とらはあり

ら海底 延喜式 万十小



はとらあまあ〜あま〜  
彼も〜  
まに〜  
息も〜  
あま〜  
證トスルニ是ラス  
にや〜  
ト〜

一 歌うた〜の海小舟〜

城〜

○今東細流〜  
杉〜

〜  
浦〜

真津〜  
〜

〜  
〜  
〜

いふことどもは思はけり音も  
かゝ成り入能りいふ事其の思物も  
音もいふやあらんかもしりいふ  
いふ能りいふかもしり思物もいふ  
大勢いふり支りいふ思物もいふ  
おさとのゆい音もいふ  
いひいふいふいふいふいふいふ  
あらもいふいふいふいふいふ  
れいりりり

○今按和名云蟻蝶上七結反下七孔反漢語  
録云加豆并無之日本紀

私記云木  
久奈木小虫ノ亂飛フ也礎スレ則天ノ風

春則天雨ニ日本紀ノ十三元蔡紀ニ云

初皇后中慈媛大隨丹在家ニ独遊ニ苑中

時圖雞國造從傍ニ徑行之乘馬ニ而

莅テ籬謂皇后ニ嘲之曰能作園ニ乎也

者也汝此去那  
鼻苦也且曰歷乞戸丹其蘭一茎

烏歷乞此去真授戸  
丹此去親自皇后則採一根蘭一与

於來馬者因以問何用求蘭那來



細大入大位嗣者さかたり内大臣の令  
外此者さかたり友位令さかたり裁はる友位令  
久成冠の時内大臣は左大臣より小  
かまたり

○今按日本紀卷二十五孝德紀云天豐  
財重日足姫天皇四年六月庚戌云  
由是怪皇子不得固辭升壇即祚云  
以阿倍内麻呂臣為左大臣以藤原倉  
山田石川麻呂臣為右大臣以大錦冠授

中臣鎌子連為内臣增封若干戸云  
中臣鎌子連懷至忠之誠據守臣  
之勢處官司之上故進退廢置計  
從事言云

辛亥以金策賜阿倍倉棧麻呂大  
臣与藤原山田石川麻呂大臣同二  
十七天智紀云八年冬十月丙午朔  
乙卯天皇幸藤原内大臣家親問  
所患云



庚申天皇遣東宮大皇弟於藤  
原内大臣家授大織冠与大臣位  
仍賜姓為藤原氏自此以後通曰  
藤原大臣辛酉藤原内大臣薨  
甲子天皇幸藤原内大臣家命大  
錦上蘓我赤兄臣奉宣恩詔仍賜  
金香鑊

あはれに徳是と初の心は

すゝたの大臣小次多法日百友と小  
孫多忠正の孫進退成法と  
先帝入天智天皇七年入丹又日蒲  
生世小孫と  
はと内臣友群はと  
十のりしと  
り小内大臣と  
後人たの事成と  
終した大臣のと



蓬生

一 今東葉をほりて

○今東

葉をほりて

葉をほりて

葉をほりて

葉をほりて

○今東葉をほりて

葉をほりて

ち本竹少もやあふりたてたてりて  
くし守牆も垣とてたてらるゝあぢふ  
たふもかくていふたてたてりて  
本竹もくし守牆も垣とてたてらるゝ  
竹から成法りてたてたてりて  
しつゝの根より心かたなり  
ぬ妻人かすいふとあるあぢらるゝ  
○今梅既切日如紀 頌絶 同上  
りるもくえりて

む用あり

○今東栗人あぢらるゝ 頌絶とあり  
えり用いふていふあぢらるゝ

くし守牆も垣とてたてらるゝ

○今栗心 既切 万十三

くし守牆も垣とてたてらるゝ

ら唐寄

○今栗 伊指あぢらるゝ  
くし守牆も垣とてたてらるゝ





いふはたはつとる

一 ちかきとあつとる

○今東の国はあつとる

いふはたはつとる

一 ちかきとあつとる

○今東の国はあつとる

いふはたはつとる

○今東の国はあつとる

いふはたはつとる

○今東の国はあつとる

いふはたはつとる

○今東の国はあつとる

いふはたはつとる

○今東の国はあつとる

いふはたはつとる

一 ちかきとあつとる

○今東の国はあつとる

いふはたはつとる





~~~~~  
~~~~~

○カ桑 新古々 俊成

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

○今梅

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

後めりい凍氷をこりこりし
どちるははむらうまの梅やれり
少く白あめの羽をうると反用られたり
へ

一 ありら〜〜〜
今梅 葉 葉

あはれあはれちから柳の葉も
なむ〜〜〜

一 花がれあはれ花の葉のふら〜
ありら〜〜〜
ありら〜〜〜
ありら〜〜〜

○今梅 葉 葉 葉 葉 葉 葉

長方板の梅の葉
神を言〜

ありら〜〜〜
保一
一 花がれあはれちから

一 じりよたきり

~~~~~

~~~~~

○今按に

一 じりよたきり

~~~~~

~~~~~

ら古人釋一同顔叔子事云

定家ゆわの塔ふちららるる或人

堂しちりのあたらり

細畢竟ん定法りりりり

○今案龍叔子らるるは

つすま小月人

功徳人らるるまらるる塔らるる堂もとら

子あ若らるる

らるる

廣文の

法合

一 此一々のところありぬ

細子くくし只櫛也

縁の字成りくくしは組より

死又云箱のくくしは組より

後には是を組と以て云ふ

○今按和名抄より十四客飾具云唐

韻云梳音疎一割細櫛也枕

送百刺櫛枕之同卷暇玩具云礼

神代のしん今とま

あ
選子親

ま

ま

後中森杖上 後人

ま

ま

ま

ま
右余法師

○ま

ま

ま

月

ま

ま

ま

ま

今東の所へは

時須なるは

用

友を招き

御座り

用

今東の所へは

時須なるは

用

今東の所へは

時須なるは

用

友を招き

御座り

用

今東の所へは

時須なるは

用

○今林日本純一受家
の
楮紳を
枝祥
ん
ら
○今東海路
ら
ら

今此流氏の
後と
られ

おのづからいふにむかしは

うづまきいふにむかしは

おのづからいふにむかしは

うづまきいふにむかしは

おのづからいふにむかしは

うづまきいふにむかしは

おのづからいふにむかしは

うづまきいふにむかしは

おのづからいふにむかしは

うづまきいふにむかしは

おのづからいふにむかしは

うづまきいふにむかしは

おのづからいふにむかしは

うづまきいふにむかしは

おのづからいふにむかしは

うづまきいふにむかしは

おのづからいふにむかしは

○今葉 秋のついでに 秋

光りもいなる

光りもいなる

一 又もいなる

多量にあらう

○今梅より後より

ぬれらるる

一 又もいなる

○今葉細流小文と欲退めの方より別

用と想のむららるる

月一但今都方より

はのむららるる

用一又もいなる

ゆららるる

多量にあらう

あつた

をいなる

らるる

らるる

一
あはれなるかたけのふかやまのてらに

よりのくはひもさる

○今梅

あはれなるかたけのふかやまのてらに

よりのくはひもさる

一
あはれなるかたけのふかやまのてらに

よりのくはひもさる

あはれなるかたけのふかやまのてらに

よりのくはひもさる

○今桑地川舟行はむとてはてしなく

大板

あはれなるかたけのふかやまのてらに

よりのくはひもさる

あはれなるかたけのふかやまのてらに

一
あはれなるかたけのふかやまのてらに

よりのくはひもさる

○今梅渡舟横難一云未水龍乃波辰

あはれなるかたけのふかやまのてらに

終り

終り

終り

終り

○今東日本に

終り

終り

終り

終り

終り

終り

終り

終り

終り

終り

終り

○今東本朝又

終り

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

○今梅出の行があらうと云ふりにたが
はうは

万葉歌十

雲ちり海ふれふりし海

ここのはすあふん

人たふ集らんあつあつ

らあまあつあつあつあつ

一本丁ふりたかられ

○今梅遊仙處云 擧頭門中忽見

~~~~~  
~~~~~

○今集 十

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

○今集 十

~~~~~

~~~~~

~~~~~

○今集 始 法 師

~~~~~

~~~~~

~~~~~

小町 集 小

十娘 ハタ 羊面 カクレカバ

一 ちりてん

○今梅枝様式は、ちりてん

一 ちりてん

○今梅枝様式は、ちりてん

ちりてん

○今梅枝様式は、ちりてん

ちりてん

○今梅枝様式は、ちりてん

ちりてん

○今梅枝様式は、ちりてん

ちりてん

○今梅枝様式は、ちりてん

ちりてん

○今梅枝様式は、ちりてん

ちりてん

○今梅枝様式は、ちりてん

ちりてん

ちりてん

○今梅遅く 万葉集

一 湯乃一ぬふの夫と小つら

○万葉集 神代紀下云 別撰<sup>ヨチ</sup>持衣

帶不可<sup>カ</sup>排離

一 乃夫とつら

乃湯梅人の氏行

或は梅人のむ人つら

人のつら

○今東梅人の梅の比の名程故人の入

和名執云尾張國愛智郡

作良<sup>サ</sup>卿是ナリ

乃美事と小 乃希美人

梅田つらむにわらわら

一乃しふらじ 鶴鳴とら

乃乃梅田の梅人は乃乃律田

られらつらとら

乃乃梅田の梅人は乃乃律田

乃乃梅田の梅人は乃乃律田

皇之集

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

今更なる事は  
○今更なる事は  
○今更なる事は

○今更なる事は  
○今更なる事は  
○今更なる事は

○今更なる事は  
○今更なる事は  
○今更なる事は

○今更なる事は  
○今更なる事は  
○今更なる事は









一 やむをばよきとておぼしむる事ありては

かゝる

○今東御流小正に承りて承りては  
集書之中取致のりおぼしむる事ありては

作書戸部小舟又案次位治了大補  
とておぼしむる事ありては  
榮流忠節の年号又承りては  
免法八年ありて六年に承りては

六年集書小正元承りては  
の改らばるる事ありては  
しりては  
ふさりては

は不祥

○今集書小正承りては  
しりては

いづくに承りては

○今集書小正承りては

今更におかしき事ありしをいふは  
歎けしことありけり久し  
しれし物

細  
おかしき事ありしをいふは  
歎けし物

○今更におかしき事ありしをいふは  
歎けしことありけり久し  
しれし物

槿

○今更におかしき事ありしをいふは  
歎けしことありけり久し  
しれし物



けりよも知すしとて神のい  
むるなるかきくしにむらぬ人  
九尾狐波能為姫子今日此  
他妻尔吾毛交年吾妻他毛  
言同此山乎牛掃神之從來  
不禁行事叙云  
日此紀の制の事候いし  
とるよのついでにむらぬ人  
てて交

東南の凡をいつる

○今林級とすし神の名神  
い入るは目一留流と候  
けり

みとれと神の

細 無きしとれと神の  
く成るしとれと神の

○今東地前は是の  
はしとれと神の

○今探類ホ、エカム問り

一 ちがやゝゑん

細 寸直のりしは地をなむとせむ

し のしりしは地をなむとせむ

○今探類がむしりしは地をなむとせむ

万葉集卷三 ちがやゝゑん

ちがやゝゑん

同 四 戻りしは地をなむとせむ

ちがやゝゑん

同上 ちがやゝゑん

ちがやゝゑん

一 ちがやゝゑん

○今探類西の門に難くも出入り

し ちがやゝゑん

ちがやゝゑん

一 ちがやゝゑん

ちがやゝゑん



○今集ワタツキ〜  
 平足人あ〜  
 〜〜

古書紙定本  
 〜〜

○今集〜  
 美本〜  
 力カを〜  
 〜〜

〜  
 多此〜  
 〜〜  
 〇今集和名抄之張楯カ云碑延天灘

二音之  
多都故 古不正也

一 〇今東世歩行あゝる

細 〇今東世歩行あゝる

人 〇今東世歩行あゝる

〇今東世歩行あゝる

一 人 〇今東世歩行あゝる

〇今東 〇今東 〇今東

人 〇今東世歩行あゝる

人 〇今東世歩行あゝる

一 〇今東世歩行あゝる

〇今東世歩行あゝる

〇今東世歩行あゝる

〇今東世歩行あゝる

一 〇今東世歩行あゝる

〇今東世歩行あゝる

〇今東世歩行あゝる

〇今東世歩行あゝる

一 〇今東世歩行あゝる



天川を流るる水は

清く流るる水は

一 清く流るる水は

○今葉流氏宗上御流世と小川

以流氏と云ふは

不通也

一 水は清く流るる水は

ら

細く流るる水は

○今葉流氏宗上御流世と小川

又流世宗上御流世と小川

一 清く流るる水は

清く流るる水は

一 清く流るる水は

日女紀の事  
種姓の貴賤は人の後位下位を  
しはたかき年位は極むるは  
尊と卑とをわきまをわきま  
ぬふるは人の後位下位を  
しはたかき年位は極むるは  
大位はたかき年位は極むるは  
不毛の事  
魚一と日女紀の事  
いふ事小たかき年位は極むるは  
尊と卑とをわきまをわきま  
ぬふるは人の後位下位を  
しはたかき年位は極むるは  
大位はたかき年位は極むるは  
不毛の事  
魚一と日女紀の事  
いふ事小たかき年位は極むるは  
尊と卑とをわきまをわきま  
ぬふるは人の後位下位を  
しはたかき年位は極むるは  
大位はたかき年位は極むるは  
不毛の事

一 花のつぼみはさくらさくら

○今花はさくらさくら

花のつぼみはさくらさくら

花のつぼみはさくらさくら

一 花のつぼみはさくらさくら

○今花はさくらさくら

花のつぼみはさくらさくら

花のつぼみはさくらさくら

花のつぼみはさくらさくら

一 花のつぼみはさくらさくら

○今花はさくらさくら

花のつぼみはさくらさくら

一 花のつぼみはさくらさくら

○今花はさくらさくら

花のつぼみはさくらさくら

○今花はさくらさくら

花のつぼみはさくらさくら

花のつぼみはさくらさくら

一 海心のしんちとていふこと

○今東海に東海といふ 後人ちて

人ちていふこと

今世に法をいふこと

物初撰 意乃云 中納言足利公のち

かゝせしこと

ふん

ついでにいふこと

ついでにいふこと

一 今東海に東海といふ 後人ちて

ゆいけい

今世に法をいふこと

今世に法をいふこと

○今東海に東海といふ 後人ちて

一 今東海に東海といふ 後人ちて

と鶴乃多成は

いふこと

○今東海に東海といふ 後人ちて





孟音義紙にのつる始にちりり用之  
抄延喜式外志抄にも書居りし書居り  
○今東書合のしるしをもちりり  
まそしるしをもちりり書居りし書  
しるしをもちりり書居りし書  
延喜式外志抄にも書居りし書  
けし  
○今東今人信にのつる始に  
後のいひ成つる

ましるしをもちりり  
○今東西文のしるしをもちりり  
信もよのしるしをもちりり  
西文書と能くしるしをもちりり

きんちりり  
○今東今人信にのつる始に  
のつるしるしをもちりり  
○今東此のしるしをもちりり



○今梅もさかすかすのさかすかす  
さかすかすのさかすかす

一 今もさかすかすのさかすかす

さかすかすのさかすかす

梅さかすかすのさかすかす

さかすかすのさかすかす

後悔さかすかす

○今もさかすかすのさかすかす

さかすかすのさかすかす

さかすかすのさかすかす

さかすかすのさかすかす

一 さかすかすのさかすかす

○今梅もさかすかすのさかすかす

一 さかすかすのさかすかす

○今もさかすかすのさかすかす

さかすかすのさかすかす

さかすかすのさかすかす

さかすかすのさかすかす

年奇 第奇 上九日記

一 奇りありき 奇りありき 奇りありき

○今集 白文文集

一 奇りありき 奇りありき 奇りありき

○今集 定数記

奇りありき 奇りありき 奇りありき

奇りありき 奇りありき 奇りありき



